



AutoSupport を使用する StorageGRID software

NetApp
July 23, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/storagegrid-120/admin/what-is-autosupport.html> on July 23, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

AutoSupport を使用する	1
StorageGRIDのAutoSupportについて学ぶ	1
Active IQ とは何ですか？	1
AutoSupport パッケージに含まれる情報	1
StorageGRIDでAutoSupportを設定する	5
AutoSupport パッケージのプロトコルを指定します	6
毎週のAutoSupportを無効化する	7
イベントトリガー型 AutoSupport を無効にする	7
オンデマンド AutoSupport を有効にする	7
ソフトウェアアップデートのチェックを無効にする	8
追加の AutoSupport 送信先を追加する	8
アプライアンスの AutoSupport を設定する	9
StorageGRIDでAutoSupportパッケージを手動でトリガーする	9
StorageGRID AutoSupport パッケージのトラブルシューティング	10
毎週のAutoSupportパッケージエラー	10
ユーザーによるトリガーまたはイベントによるトリガーのAutoSupportパッケージエラー	11
AutoSupport パッケージの障害を修正する	11
StorageGRID を経由して Eシリーズ AutoSupport パッケージを送信する	11

AutoSupport を使用する

StorageGRIDのAutoSupportについて学ぶ

AutoSupport 機能を使用すると、StorageGRID は健全性およびステータスパッケージを NetApp テクニカルサポートに送信できます。

AutoSupportを使用すると、問題をより迅速に解決できます。テクニカルサポートは、お客様のシステムのストレージニーズを監視し、新しいノードやサイトを追加する必要があるかどうかを判断するお手伝いをいたします。オプションとして、AutoSupportはパッケージをもう1つの追加の宛先に送信できます。

StorageGRID には 2 種類の AutoSupport があります：

- **StorageGRID AutoSupport** は、StorageGRID ソフトウェアの問題をレポートします。StorageGRID の初回インストール時にデフォルトで有効になります。必要に応じて["デフォルトの AutoSupport 構成を変更する"](#)できます。



StorageGRID AutoSupport が有効になっていない場合、Grid Manager ダッシュボードにメッセージが表示されます。メッセージには、AutoSupport の設定ページへのリンクが含まれています。メッセージを閉じると、AutoSupport が無効のままであっても、ブラウザのキャッシュがクリアされるまで再び表示されません。

- アプライアンスハードウェア **AutoSupport** は、StorageGRID アプライアンスの問題を報告します。次の操作が必要です。["各アプライアンスでハードウェア AutoSupport を設定する"](#)

Active IQ とは何ですか？

Active IQ は、クラウドベースのデジタルアドバイザーであり、NetApp のインストールベースから得られる予測分析とコミュニティの知見を活用します。継続的なリスク評価、予測アラート、処方的ガイダンス、および自動化されたアクションにより、問題が発生する前に防止し、システムの健全性の向上とシステム可用性の向上を実現します。

NetApp Support Site で Active IQ のダッシュボードと機能を使用する場合は、AutoSupport を有効にする必要があります。

["Active IQ Digital Advisor ドキュメント"](#)

AutoSupport パッケージに含まれる情報

AutoSupport パッケージには以下のファイルと詳細情報が含まれています。

ファイル名	フィールド	説明
AUTOSUPPORT-HISTORY.XML	AutoSupport シーケンス番号 + この AutoSupport の宛先 + 配信ステータス + 配信試行回数 + AutoSupport 件名 + 配信 URI + 最終エラー + AutoSupport PUT ファイル名 + 生成時刻 + Autosupport 圧縮サイズ + Autosupport 非圧縮サイズ + 合計収集時間 (ms)	AutoSupport 履歴ファイル。
AUTOSUPPORT.XML	ノード + サポートへの連絡プロトコル + HTTP/HTTPS のサポート URL + サポートアドレス + AutoSupport OnDemand 状態 + AutoSupport OnDemand サーバー URL + AutoSupport OnDemand ポーリング間隔	AutoSupport ステータスファイル。使用されているプロトコルの詳細、テクニカルサポートの URL とアドレス、ポーリング間隔、および OnDemand AutoSupport が有効か無効かを示します。
BUCKETS.XML	バケットID + アカウントID + ビルドバージョン + ロケーション制約構成 + コンプライアンス有効 + コンプライアンス構成 + S3オブジェクトロック有効 + S3オブジェクトロック構成 + 一貫性構成 + CORS有効 + CORS構成 + 最終アクセス時間有効 + ポリシー有効 + ポリシー構成 + 通知有効 + 通知構成 + クラウドミラー有効 + クラウドミラー構成 + 検索有効 + 検索構成 + バケットタグ付け有効 + バケットタグ付け構成 + バージョン管理構成	バケットレベルでの設定詳細と統計情報を提供します。バケット構成の例としては、プラットフォームサービス、コンプライアンス、バケットの一貫性などが挙げられます。
GRID-CONFIGURATIONS.XML	属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	グリッド全体の構成情報ファイル。グリッド証明書、メタデータのリザーブスペース、グリッド全体の構成設定（コンプライアンス、S3 オブジェクト ロック、オブジェクト圧縮、アラート、syslog、および ILM 構成）、イレイジャーコーディング プロファイルの詳細、DNS 名、および "NMS name" に関する情報が含まれています。

ファイル名	フィールド	説明
GRID-SPEC.XML	グリッド仕様、生のXML	StorageGRID の設定および展開に使用されます。グリッド仕様、NTP サーバーの IP アドレス、DNS サーバーの IP アドレス、ネットワークポロジー、およびノードのハードウェアプロファイルが含まれています。
GRID-TASKS.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	グリッドタスク（保守手順）のステータスファイル。グリッド上で実行中のタスク、終了したタスク、完了したタスク、失敗したタスク、および保留中のタスクの詳細を提供します。
GRID.JSON	グリッド + 改訂版 + ソフトウェアバージョン + 概要 + ライセンス + パスワード + DNS + NTP + サイト + ノード	グリッド情報。
ILM-CONFIGURATION.XML	属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	ILM構成の属性一覧。
ILM-STATUS.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	ILMメトリクス情報ファイル。各ノードのILM評価率とグリッド全体のメトリクスが含まれています。
ILM.XML	ILMの生のXML	ILMアクティブポリシーファイル。ストレージプールID、取り込み動作、フィルタ、ルール、概要など、アクティブなILMポリシーに関する詳細情報が含まれています。
LOG.TGZ	該当なし	ダウンロード可能なログファイル。各ノードの `bycast-err.log` および `servermanager.log` が含まれます。
MANIFEST.XML	収集順序 + AutoSupport このデータのコンテンツファイル名 + このデータ項目の概要 + 収集されたバイト数 + 収集にかかった時間 + このデータ項目のステータス + エラーの概要 + AutoSupport このデータのコンテンツタイプ	AutoSupport のメタデータとすべての AutoSupport ファイルの簡単な説明が含まれます。

ファイル名	フィールド	説明
NMS-ENTITIES.XML	属性インデックス + エンティティOID + ノードID + デバイスモデルID + デバイスモデルバージョン + エンティティ名	グループおよびサービスエンティティ ("NMSツリー")。グリッドトポロジーの詳細を提供します。ノードは、そのノード上で実行されているサービスに基づいて特定できます。
OBJECTS-STATUS.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	オブジェクトの状態（バックグラウンド スキャン ステータス、アクティブ転送、転送速度、総転送量、削除率、破損したフラグメント、失われたオブジェクト、欠落したオブジェクト、修復試行回数、スキャン率、推定スキャン期間、および修復完了ステータスを含む）。
SERVER-STATUS.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	サーバー構成。各ノードに関する以下の詳細情報が含まれています：プラットフォームの種類、オペレーティングシステム、インストール済みメモリ、利用可能なメモリ、ストレージ接続、ストレージアプライアンスシャーシのシリアル番号、ストレージコントローラの障害ドライブ数、コンピュートコントローラシャーシの温度、コンピュートハードウェア、コンピュートコントローラのシリアル番号、電源、ドライブサイズ、およびドライブタイプ。
SERVICE-STATUS.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	サービスノード情報ファイル。割り当てられたテーブルスペース、空きテーブルスペース、データベースのReaperメトリック、セグメント修復時間、修復ジョブ時間、自動ジョブ再起動、自動ジョブ終了などの詳細情報が含まれます。
STORAGE-GRADES.XML	ストレージグレードID + ストレージグレード名 + ストレージノードID + ストレージノードパス	各ストレージノードに対応するストレージグレード定義ファイル。
SUMMARY-ATTRIBUTES.XML	グループOID + グループパス + サマリー属性ID + サマリー属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	StorageGRID の使用状況情報を要約した高レベルのシステムステータスデータです。グリッド名、サイト名、グリッドごとおよびサイトごとのストレージノード数、ライセンスの種類、ライセンス容量と使用状況、ソフトウェアサポート条件、S3 操作の詳細などの情報を提供します。

ファイル名	フィールド	説明
SYSTEM-ALERTS.XML	名前 + 重要度 + ノード名 + アラートステータス + サイト名 + アラート発生時刻 + アラート解決時刻 + ルールID + ノードID + サイトID + ミュート済み + その他の注釈 + その他のラベル	StorageGRID システムの潜在的な問題を示す現在のシステムアラート。
USERAGENTS.XML	ユーザーエージェント + 日数 + HTTP リクエストの合計 + 取り込まれたバイトの合計 + 取得されたバイトの合計 + PUT リクエスト + GET リクエスト + DELETE リクエスト + HEAD リクエスト + POST リクエスト + OPTIONS リクエスト + 平均リクエスト時間 (ms) + 平均 PUT リクエスト時間 (ms) + 平均 GET リクエスト時間 (ms) + 平均 DELETE リクエスト時間 (ms) + 平均 HEAD リクエスト時間 (ms) + 平均 POST リクエスト時間 (ms) + 平均 OPTIONS リクエスト時間 (ms)	アプリケーションのユーザーエージェントに基づいた統計情報。例えば、ユーザーエージェントごとのPUT/GET/DELETE/HEAD操作の回数や、各操作の合計バイトサイズなど。
X-HEADER-DATA	X-Netapp-asup-generated-on + X-Netapp-asup-hostname + X-Netapp-asup-os-version + X-Netapp-asup-serial-num + X-Netapp-asup-subject + X-Netapp-asup-system-id + X-Netapp-asup-model-name	AutoSupport ヘッダーデータ。

StorageGRIDでAutoSupportを設定する

デフォルトでは、StorageGRID AutoSupport 機能は、StorageGRID を最初にインストールしたときに有効になります。ただし、各アプライアンスでハードウェア AutoSupport を設定する必要があります。必要に応じて、AutoSupport の設定を変更できます。

StorageGRID AutoSupport の設定を変更する場合は、プライマリ管理ノードでのみ変更を行ってください。各アプライアンスで [ハードウェア AutoSupport の設定](#) 必要があります。

開始する前に

- "対応ウェブブラウザ" を使用して Grid Manager にサインインしています。
- あなたは[ルートアクセス権限](#)があります。

- HTTPSを使用してAutoSupportパッケージを送信する場合は、直接または["プロキシ サーバを使用する"](#)を介して、プライマリ Admin ノードへのアウトバウンドインターネットアクセスを提供しています（受信接続は不要です）。
- StorageGRID の AutoSupport ページで HTTP を選択した場合、AutoSupport パッケージを HTTPS として転送するには ["プロキシ サーバを設定しました"](#) が必要です。NetApp の AutoSupport サーバは、HTTP を使用して送信されたパッケージを拒否します。
- SMTPをAutoSupportパッケージのプロトコルとして使用する場合は、SMTPメールサーバーを設定済みである必要があります。

タスク概要

以下のオプションを任意に組み合わせて、AutoSupport パッケージをテクニカルサポートに送信できます：

- 毎週：AutoSupport パッケージを週に1回自動的に送信します。デフォルト設定：有効。
- イベントトリガー：1時間ごと、または重大なシステムイベントの発生時に、AutoSupportパッケージを自動的に送信します。デフォルト設定：有効。
- オンデマンド：テクニカルサポートが StorageGRID システムに AutoSupport パッケージを自動的に送信するよう要求できます。これは、問題に積極的に取り組んでいるときに便利です（HTTPS AutoSupport 送信プロトコルが必要です）。デフォルト設定：無効。
- ユーザーによるトリガー：いつでも手動で AutoSupport パッケージを送信できます。
- ログ収集：["ログファイルとシステムデータを手動で収集し、AutoSupport パッケージを送信する"](#)

AutoSupport パッケージのプロトコルを指定します

以下のプロトコルのいずれかを使用して、AutoSupport パッケージを送信できます：

- **HTTPS:** これは新規インストール時のデフォルト設定であり、推奨設定です。このプロトコルはポート443を使用します。[AutoSupport のオンデマンド機能を有効にする](#)場合は、HTTPSを使用する必要があります。
- **HTTP:** HTTPを選択した場合は、プロキシ サーバを設定してAutoSupportパッケージをHTTPSで転送する必要があります。NetAppのAutoSupportサーバはHTTPを使用して送信されたパッケージを拒否します。このプロトコルはポート80を使用します。
- **SMTP:** このオプションは、AutoSupport パッケージをメールで送信する場合に使用します。

設定したプロトコルは、あらゆる種類のAutoSupportパッケージの送信に使用されます。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** > 設定 を選択します。
2. AutoSupport パッケージの送信に使用するプロトコルを選択してください。
3. *HTTPS*を選択した場合は、テクニカルサポートサーバーへの接続を保護するためにNetAppサポート証明書（TLS証明書）を使用するかどうかを選択します。
 - 証明書の検証（デフォルト）：AutoSupportパッケージの送信が安全であることを確認します。NetAppサポート証明書は、StorageGRIDソフトウェアとともにすでにインストールされています。
 - 証明書を検証しない：証明書の検証を使用しない正当な理由がある場合（証明書に一時的な問題がある場合など）にのみ、このオプションを選択してください。

4. 「保存」を選択します。毎週送信されるパッケージ、ユーザーによってトリガーされるパッケージ、およびイベントによってトリガーされるパッケージはすべて、選択したプロトコルを使用して送信されます。

毎週のAutoSupportを無効化する

デフォルトでは、StorageGRID システムは週に一度、技術サポートに AutoSupport パッケージを送信するように設定されています。

週次のAutoSupportパッケージが送信されるタイミングを確認するには、**AutoSupport** > *結果*タブに移動してください。*週次AutoSupport*セクションで、*次回の予定時刻*の値を確認してください。

毎週の AutoSupport パッケージの自動送信はいつでも無効にすることができます。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** > 設定 を選択します。
2. **Enable Weekly AutoSupport** チェックボックスをオフにします。
3. * 保存 * を選択します。

イベントトリガー型 AutoSupport を無効にする

デフォルトでは、StorageGRID システムは、AutoSupport パッケージを1時間ごとにテクニカルサポートに送信するように設定されています。

イベントトリガーのAutoSupportはいつでも無効にすることができます。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** > 設定 を選択します。
2. イベントトリガー **AutoSupport** を有効にする チェックボックスをオフにします。
3. * 保存 * を選択します。

オンデマンド AutoSupport を有効にする

AutoSupport on Demand は、テクニカルサポートが現在対応中の問題の解決を支援することができます。

デフォルトでは、AutoSupport オンデマンド機能は無効になっています。この機能を有効にすると、テクニカルサポートがお客様の StorageGRID システムに AutoSupport パッケージを自動的に送信するよう要求できます。テクニカルサポートは、AutoSupport オンデマンドクエリのポーリング時間間隔を設定することもできます。

テクニカルサポートでは、AutoSupport On Demand を有効または無効にすることはできません。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** > 設定 を選択します。
2. プロトコルとして **HTTPS** を選択してください。
3. 毎週 **AutoSupport** を有効にする チェックボックスをオンにします。
4. *AutoSupport On Demand を有効にする*チェックボックスを選択します。

5. * 保存 * を選択します。

AutoSupport on Demand が有効になっており、テクニカルサポートは AutoSupport on Demand リクエストを StorageGRID に送信できます。

ソフトウェアアップデートのチェックを無効にする

デフォルトでは、StorageGRID は NetApp に接続して、お使いのシステムで利用可能なソフトウェアアップデートがあるかどうかを確認します。StorageGRID のホットフィックスまたは新しいバージョンが利用可能な場合、新しいバージョンは StorageGRID のアップグレードページに表示されます。

必要に応じて、ソフトウェアアップデートの確認を無効にすることもできます。たとえば、システムに WAN アクセスがない場合は、ダウンロードエラーを回避するためにチェックを無効にしてください。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** > 設定 を選択します。
2. 「ソフトウェアのアップデートを確認する」チェックボックスをオフにします。
3. * 保存 * を選択します。

追加の **AutoSupport** 送信先を追加する

AutoSupport を有効にすると、ヘルスおよびステータスパッケージがテクニカルサポートに送信されます。すべての AutoSupport パッケージに対して、追加の宛先を1つ指定できます。

AutoSupport パッケージの送信に使用されるプロトコルを確認または変更するには、[AutoSupport パッケージのプロトコルを指定する](#) の手順を参照してください。



SMTPプロトコルを使用して、AutoSupportパッケージを追加の宛先に送信することはできません。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** > 設定 を選択します。
2. 追加の **AutoSupport** 送信先を有効にする を選択します。
3. 以下を指定してください：

Hostname

追加の AutoSupport 宛先サーバーのホスト名または IP アドレス。



追加の宛先は1つだけ入力できます。

ポート

追加の AutoSupport 宛先サーバーへの接続に使用するポート。デフォルトは、HTTP の場合はポート 80、HTTPS の場合はポート 443 です。

証明書の検証

追加の接続先への接続を保護するために TLS 証明書が使用されているかどうか。

- 証明書の検証を行うには、*証明書の検証*を選択してください。
- 証明書の検証なしで AutoSupport パッケージを送信するには、「証明書を検証しない」を選択してください。

証明書の検証を使用しない正当な理由がある場合（証明書に一時的な問題がある場合など）にのみ、このオプションを選択してください。

4. *証明書の検証*を選択した場合は、以下の手順を実行してください。

- a. CA証明書の保存場所を参照します。
- b. CA証明書ファイルをアップロードします。

CA証明書のメタデータが表示されます。

5. *保存*を選択します。

今後のすべての週次、イベントトリガー、およびユーザートリガーのAutoSupportパッケージは、追加の宛先に送信されます。

アプライアンスの **AutoSupport** を設定する

AutoSupport（アプライアンス用）はStorageGRIDのハードウェアの問題を報告し、StorageGRID AutoSupportはStorageGRIDのソフトウェアの問題を報告します。ただし、例外が1つあります。SGF6112の場合、StorageGRID AutoSupportはハードウェアとソフトウェアの両方の問題を報告します。SGF6112を除く各アプライアンスでAutoSupportを設定する必要があります。SGF6112は追加の設定を必要としません。AutoSupportは、サービスアプライアンスとストレージアプライアンスとで実装方法が異なります。

SANtricity を使用して、各ストレージアプライアンスの AutoSupport を有効にします。SANtricity AutoSupport は、アプライアンスの初期セットアップ時またはアプライアンスのインストール後に設定できます：

- SG6000およびSG5700アプライアンスの場合、["SANtricity System Manager で AutoSupport を設定する"](#)

EシリーズアプライアンスのAutoSupportパッケージは、["SANtricity System Manager"](#)でプロキシによるAutoSupport配信を設定した場合、StorageGRIDのAutoSupportに含めることができます。

StorageGRID AutoSupport は、DIMM やホスト インターフェイス カード（HIC）の障害などのハードウェアの問題を報告しません。ただし、一部のコンポーネントの障害により、["ハードウェアアラート"](#)がトリガーされる場合があります。ベースボード管理コントローラー（BMC）を搭載した StorageGRID アプライアンスでは、ハードウェア障害を報告するための E メールおよび SNMP トラップを設定できます：

- ["BMC アラートのメール通知を設定する"](#)
- ["BMCのSNMP設定を構成する"](#)

関連情報

["NetAppサポート"](#)

StorageGRIDでAutoSupportパッケージを手動でトリガーする

技術サポートがお客様の StorageGRID システムの問題のトラブルシューティングを支援

できるよう、AutoSupport パッケージを手動でトリガーして送信することができます。

開始する前に

- "対応ウェブブラウザ" を使用して Grid Manager にサインインしています。
- ルートアクセス権限、またはその他のグリッド構成権限をお持ちです。

手順

1. サポート > ツール > **AutoSupport** を選択します。
2. *アクション*タブで、*ユーザー起動のAutoSupportの送信*を選択します。

StorageGRID は、AutoSupport パッケージを NetApp Support Site に送信しようとします。試行が成功した場合、「結果」タブの「最新の結果」と「最終成功時刻」の値が更新されます。問題が発生した場合、「最新の結果」の値は「失敗」に更新され、StorageGRID は AutoSupport パッケージの再送信を試みません。

3. 1分後にブラウザでAutoSupportページを更新すると、最新の結果にアクセスできます。



さらに、"より詳細なログファイルとシステムデータを収集する"して、NetApp Support Siteに送信することができます。

StorageGRID AutoSupport パッケージのトラブルシューティング

AutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRIDシステムはAutoSupportパッケージのタイプに応じて異なるアクションを実行します。AutoSupportパッケージのステータスを確認するには、サポート > ツール > **AutoSupport** > *結果*を選択します。

AutoSupport パッケージの送信に失敗すると、**AutoSupport** ページの「結果」タブに「失敗」と表示されます。



AutoSupportパッケージをNetAppに転送するようにプロキシ サーバを構成した場合は、"プロキシ サーバの設定が正しいことを確認してください"する必要があります。

毎週のAutoSupportパッケージエラー

週次のAutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRID システムは次のアクションを実行します：

1. 「最新の結果」属性を「再試行中」に更新します。
2. AutoSupport パッケージの再送信を、1時間にわたって4分ごとに15回試みます。
3. 送信失敗が1時間続いた場合、「最新の結果」属性を「失敗」に更新します。
4. 次の予定時刻に AutoSupport パッケージの再送信を試みます。
5. NMS サービスが利用できないためにパッケージの送信が失敗した場合、および 7 日以内にパッケージが送信された場合は、定期的な AutoSupport スケジュールを維持します。
6. NMS サービスが再び利用可能になると、7日以上パッケージが送信されていない場合は、AutoSupport パ

ッテージを直ちに送信します。

ユーザーによるトリガーまたはイベントによるトリガーの**AutoSupport**パッケージエラー

ユーザーによるトリガーまたはイベントによるトリガーの AutoSupport パッケージの送信に失敗した場合、StorageGRID システムは次のアクションを実行します。

1. 既知のエラーの場合は、エラーメッセージを表示します。例えば、ユーザーが正しいメール設定を入力せずに SMTP プロトコルを選択した場合、次のエラーが表示されます：`AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.`
2. パッケージの再送信は試みません。
3. エラーを `nms.log` に記録します。

障害が発生し、SMTP が選択されているプロトコルである場合は、StorageGRID システムのメールサーバーが正しく設定されており、メールサーバーが稼働していることを確認してください（サポート > アラーム（レガシー） > レガシーメールの設定）。次のエラーメッセージが AutoSupport ページに表示される場合があります：`AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.`

["メールサーバーの設定を構成する"](#)方法をご確認ください。

AutoSupport パッケージの障害を修正する

障害が発生し、SMTPが選択されているプロトコルである場合は、StorageGRIDシステムのメールサーバーが正しく設定されており、メールサーバーが稼働していることを確認してください。次のエラーメッセージが AutoSupport ページに表示される場合があります：`AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.`

StorageGRID を経由して Eシリーズ AutoSupport パッケージを送信する

Eシリーズ SANtricity System ManagerのAutoSupportパッケージは、ストレージアプライアンスの管理ポートではなく、StorageGRIDの管理ノードを経由して技術サポートに送信できます。

AutoSupport を E シリーズアプライアンスで使用方法の詳細については、["EシリーズハードウェアAutoSupport"](#)を参照してください。

開始する前に

- Grid Managerに["対応ウェブブラウザ"](#)を使用してサインインしています。
- あなたは["ストレージアプライアンス管理者またはルートアクセス権限"](#)を持っています。
- SANtricity AutoSupport を設定しました：
 - SG6000およびSG5700アプライアンスの場合、["SANtricity System Manager で AutoSupport を設定する"](#)



Grid Manager を使用して SANtricity System Manager にアクセスするには、SANtricity フォームウェア 8.70 以降が必要です。

タスク概要

EシリーズのAutoSupportパッケージにはストレージ ハードウェアの詳細が含まれており、StorageGRIDシステムから送信される他のAutoSupportパッケージよりも具体的です。

SANtricity System Manager で特別なプロキシ サーバ アドレスを設定することで、アプライアンスの管理ポートを使用せずに StorageGRID 管理ノードを経由して AutoSupport パッケージを送信できます。この方法で送信された AutoSupport パッケージは "[優先送信者 管理ノード](#)" によって送信され、Grid Manager で設定されたすべての "[管理者プロキシ設定](#)" が使用されます。

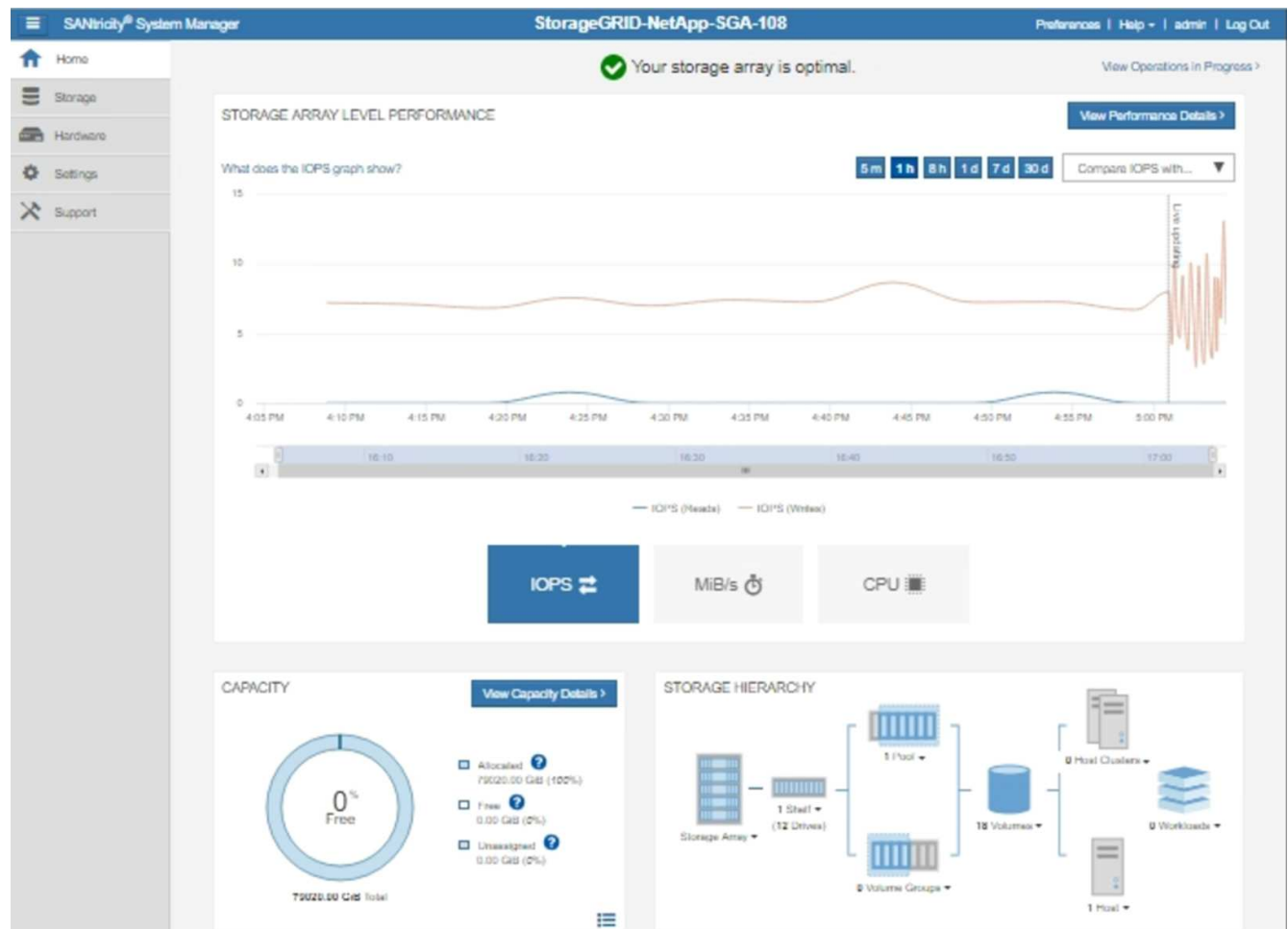


この手順は、EシリーズAutoSupportパッケージ用のStorageGRIDプロキシ サーバを設定する場合にのみ使用します。EシリーズAutoSupport設定の詳細については、"[NetApp EシリーズおよびSANtricityドキュメント](#)"を参照してください。

手順

1. Grid Managerで、*Nodes*を選択します。
2. 左側のノード一覧から、設定するストレージアプライアンスノードを選択してください。
3. **SANtricity System Manager** を選択します。

SANtricity System Manager のホームページが表示されます。



4. サポート > サポートセンター > **AutoSupport** を選択します。

AutoSupport の操作ページが表示されます。

Technical Support
Chassis serial number: 031517000693
 NetApp My Support 
US/Canada 888.463.8277
[Other Contacts](#)

Support Resources

Diagnostics

AutoSupport

AutoSupport operations AutoSupport status: Enabled 

Enable/Disable AutoSupport Features
AutoSupport proactively monitors the health of your storage array and automatically sends support data ("dispatches") to the support team.

Configure AutoSupport Delivery Method
Connect to the support team via HTTPS, HTTP or Mail (SMTP) server delivery methods.

Schedule AutoSupport Dispatches
AutoSupport dispatches are sent daily at **03:06 PM UTC** and weekly at **07:39 AM UTC** on **Thursday**.

Send AutoSupport Dispatch
Automatically sends the support team a dispatch to troubleshoot system issues without waiting for periodic dispatches.

View AutoSupport Log
The AutoSupport log provides information about status, dispatch history, and errors encountered during delivery of AutoSupport dispatches.

Enable AutoSupport Maintenance Window
Enable AutoSupport Maintenance window to allow maintenance activities to be performed on the storage array without generating support cases.

Disable AutoSupport Maintenance Window
Disable AutoSupport Maintenance window to allow the storage array to generate support cases on component failures and other destructive actions.

5. *AutoSupport配信方法の設定*を選択します。

AutoSupport の配信方法の設定ページが表示されます。

Configure AutoSupport Delivery Method

Select AutoSupport dispatch delivery method...

☒ HTTPS
☐ HTTP
☐ Email

HTTPS delivery settings [Show destination address](#)

Connect to support team...

☐ Directly ?
☒ via Proxy server ?

Host address ?
tunnel-host

Port number ?
10225

☐ My proxy server requires authentication
☐ via Proxy auto-configuration script (PAC) ?

Save Test Configuration Cancel

6. 配信方法として「HTTPS」を選択してください。



HTTPSを有効にする証明書はプリインストールされています。

7. 「プロキシ サーバ経由」を選択してください。

8. *ホストアドレス*に `tunnel-host` を入力します。

`tunnel-host` は、管理ノードを使用して E シリーズ AutoSupport パッケージを送信するための特別なアドレスです。

9. *ポート番号*に `10225` を入力します。

`10225` は、アプライアンス内の E シリーズコントローラーから AutoSupport パッケージを受信する StorageGRID プロキシ サーバのポート番号です。

10. 「Test Configuration」を選択して、AutoSupport プロキシ サーバのルーティングと設定をテストします。

正しい場合は、緑色のバナーにメッセージが表示されます：「AutoSupport の構成が検証されました。」

テストが失敗すると、赤いバナーにエラーメッセージが表示されます。StorageGRIDのDNS設定とネットワークを確認し、["優先送信者 管理ノード"](#)がNetApp Support Siteに接続できることを確認して、もう一度テストを実行してください。

11. * 保存 * を選択します。

設定が保存され、確認メッセージが表示されます：「AutoSupport の配信方法が設定されました。」

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。